

中小企業動向 トピックス

中小企業の景況は、持ち直してきている

「全国中小企業動向調査（中小企業編）」結果概要
〔2012年1-3月期実績、4-6月期および7-9月期見通し〕

当公庫では、お取引先のご協力を得て、2012年3月に全国中小企業動向調査（中小企業編）を実施しました（調査対象12,197社、有効回答企業数6,025社、回答率49.4%）。

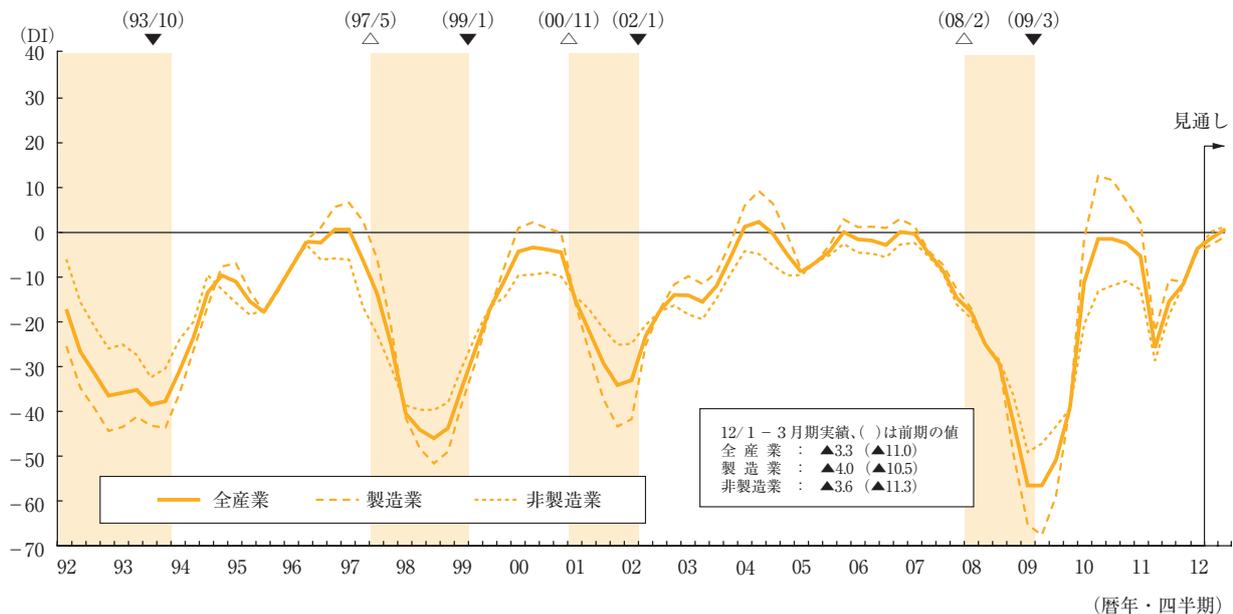
今期は業況判断DIが3期連続で上昇しました。来期以降も引き続き上昇する見通しとなっており、中小企業の景況は、持ち直してきています。

業況判断DIは3期連続で上昇

今期（2012年1-3月期）の業況判断DI（全産業）は、前期（2011年10-12月期）から7.7ポイント上昇し▲3.3となりました（図表-1）。上昇は3期連続です。業種別にみると、製造業は前期から6.5ポイント上昇し▲4.0に、非製造業は7.7ポイント上昇し▲3.6になりました。東日本大震災（以下、震災という）で悪化した中小企業の景況は、持ち直してきていることがわかります。

先行きについてみると、全産業で来期（2012年4-6月期）は▲1.0、さらに来々期（2012年7-9月期）には1.0と、DIは引き続き上昇する見通しとなっています。

図表-1 業況判断DIの推移（「好転」-「悪化」企業割合、前年同期比、季節調整値）



（注）△は景気の上昇、▼は景気の谷、網掛け部分は景気後退期（以下同じ）。

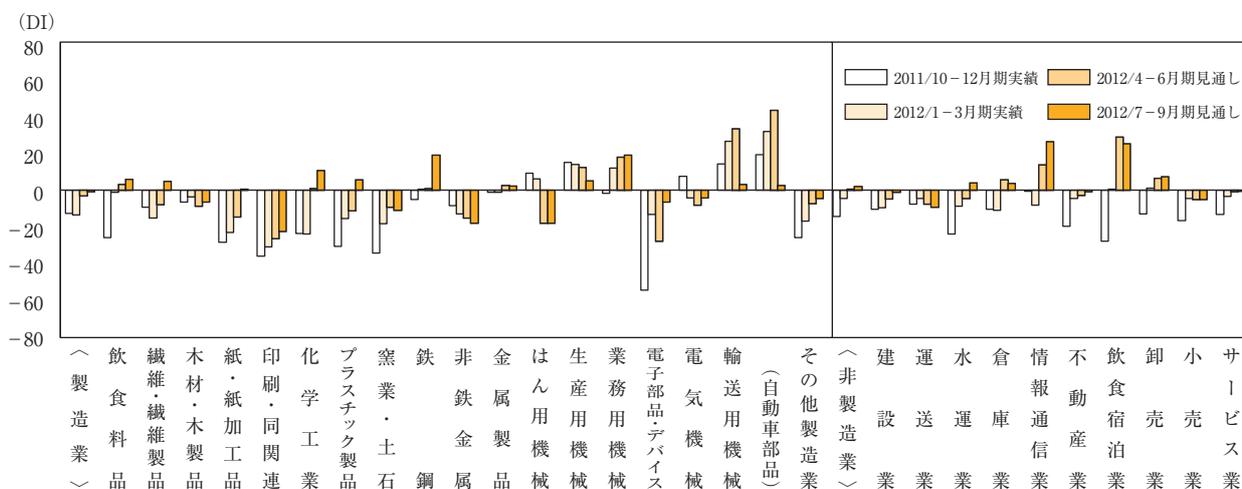
内需関連業種を中心に持ち直しの動きが広がる

今期の業況判断 DI を業種別にみると、製造業は飲食料品や輸送用機械などで上昇しています（図表－2）。また、震災からの復興や 2011 年 10 月に復活した住宅エコポイント制度による需要増を背景に、建築土木資材を扱うプラスチック製品や窯業・土石などで DI が上昇しています。

非製造業についてみると、ほとんどの業種で上昇しています。震災後に委縮した消費マインドが回復してきたことや、エコカー補助金制度が 2011 年 12 月に復活したことなどが追い風となって、小売業や飲食宿泊業で大幅に DI が上昇しています。

先行きについてみると、製造業では、飲食料品や印刷・同関連など内需関連業種で引き続き上昇を見込む業種が多い一方、円高の再燃を懸念し、外需関連である機械・金属関連など先行きを慎重にみる業種もあります。非製造業では、引き続き上昇を見込む業種が多くみられます。

図表－2 業種別業況判断 DI の推移（「好転」－「悪化」企業割合、前年同期比、季節調整値）

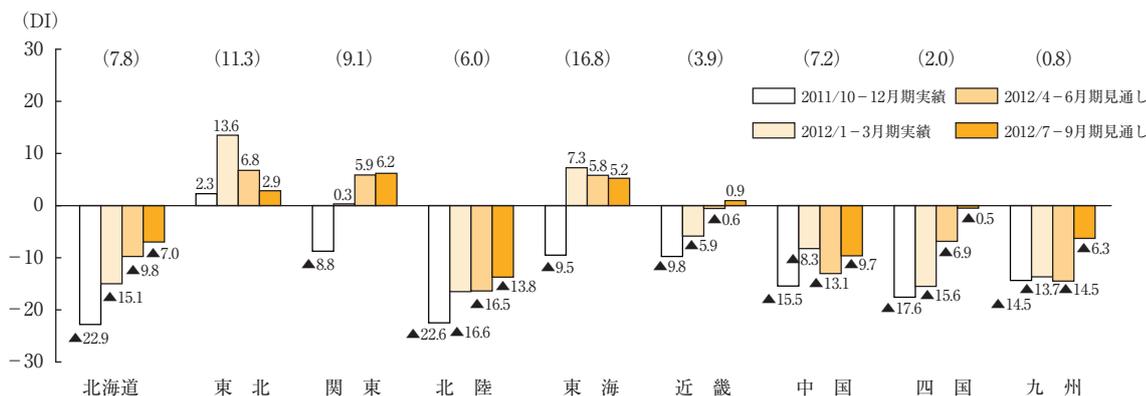


東北はプラス水準に転じる

今期の業況判断 DI を地域別にみると、すべての地域で上昇しました（図表－3）。震災からの復興が進む東北ではプラス水準が続いています。

先行きについてみると、北海道や関東など、東日本を中心に上昇する見通しとなっています。東北や関東、東海ではプラス水準が続く見通しとなっています。

図表－3 地域別業況判断 DI の推移（「好転」－「悪化」企業割合、前年同期比、季節調整値）



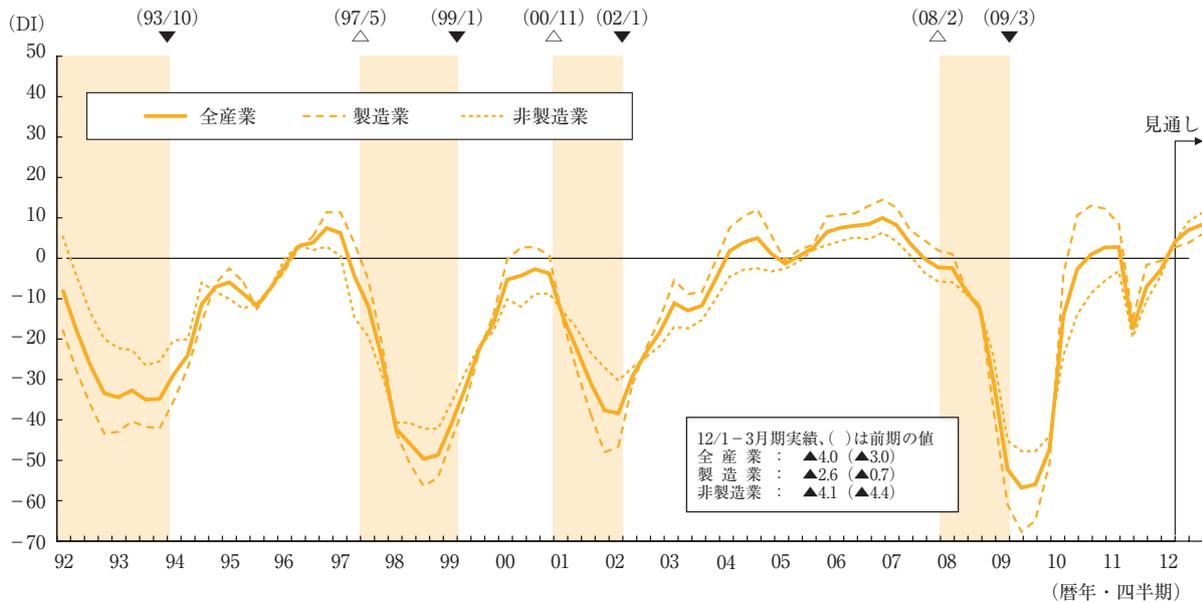
(注) () は前期からの変化幅。

売上げDIは4期ぶりにプラス水準に転じる

今期の売上げDI（全産業）は前期から7.0ポイント上昇し4.0となりました（図表-4）。DIがプラス水準になるのは4期ぶりです。業種別にみると、製造業は前期から3.3ポイント上昇し2.6に、非製造業も8.5ポイント上昇し4.1となりました。

先行きについてみると、全産業で来期以降も上昇する見通しとなっています。

図表-4 売上げDIの推移（「増加」-「減少」企業割合、前年同期比、季節調整値）

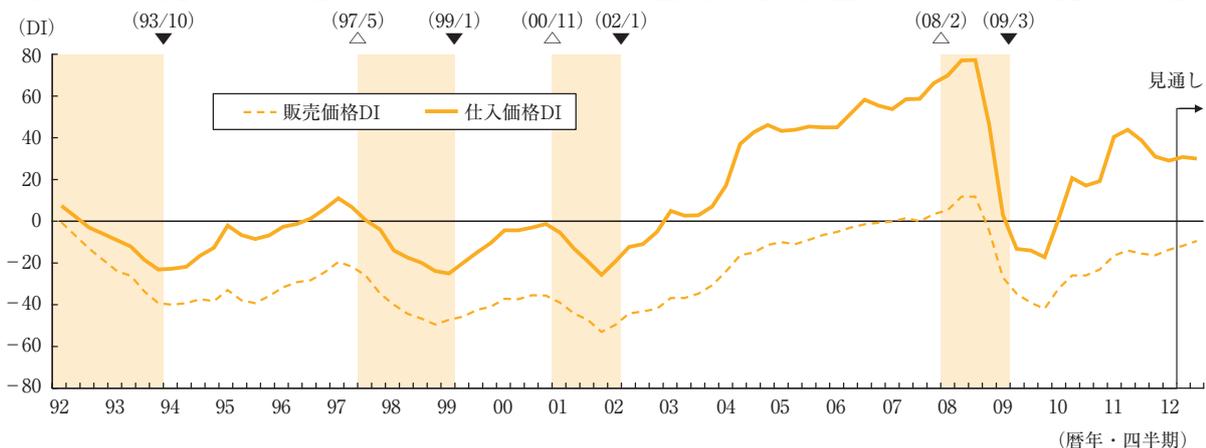


仕入価格DIは上昇の兆し

今期の価格関連DI（全産業）についてみると、仕入価格DIは前期から1.9ポイント低下し28.8となりました（図表-5）。来期についてみると、原油など原材料価格の高騰を背景に再び上昇に転じる見通しです。

販売価格DIは前期から2.6ポイント上昇し、▲13.5となりました。マイナス幅の縮小は3期ぶりです。来期も2.0ポイント上昇し、▲11.5となる見通しとなっています。

図表-5 販売価格DIと仕入価格DIの推移（いずれも「上昇」-「低下」企業割合、前年同期比、原数値）

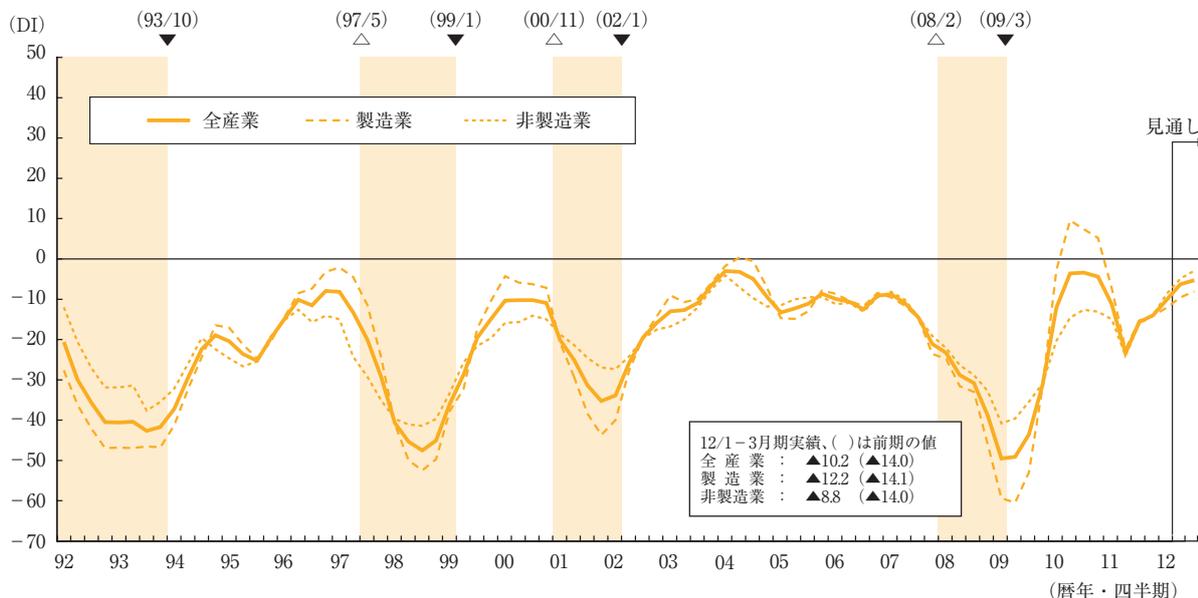


純益率DIは3期連続で上昇

今期の純益率DI（全産業）は前期から3.8ポイント上昇し▲10.2となりました（図表－6）。上昇は3期連続です。業種別にみると、製造業は前期から1.9ポイント上昇し▲12.2に、非製造業も前期から5.2ポイント上昇し▲8.8となりました。

先行きについてみると、全産業で来期は▲6.5に、来々期はさらに▲5.5となる見通しです。

図表－6 純益率DIの推移（「増加」－「減少」企業割合、前年同期比、季節調整値）



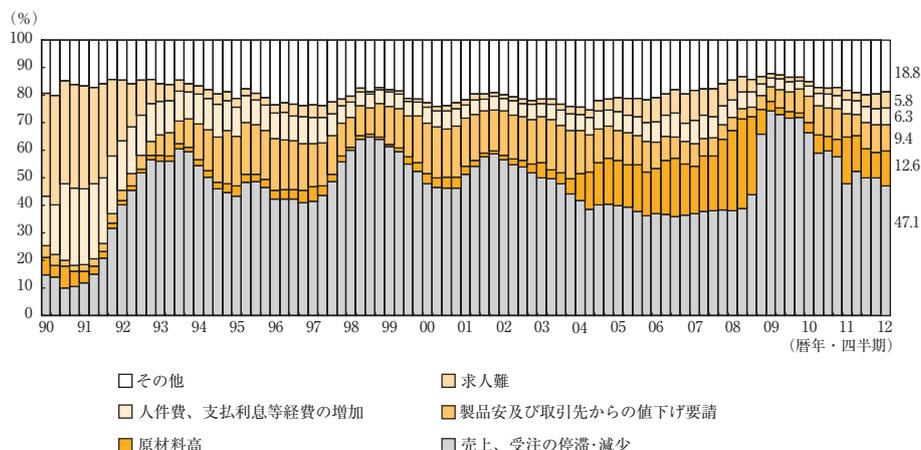
「原材料高」が4期ぶりに増加

今期の経営上の問題点をみると、「売上げ、受注の停滞・減少」の割合は前期から2.9ポイント低下し、47.1%となりました。他方、「原材料高」の割合は4期ぶりに上昇し、12.6%となりました。製造業や運輸業を中心に、原油価格の上昇によるコスト増を懸念する声が多く聞かれました。

震災からの復興需要や消費マインドの回復を背景に、中小企業の景況は内需関連業種を中心に持ち直してきています。ただ、原材料価格の高騰や夏場に予想される電力需給の逼迫、円高の再燃など懸念材料も少なくありません。今後も改善傾向が続くかどうかは注意深くみていく必要があります。

（藤田 一郎）

図表－7 経営上の問題点



「中小企業動向トピックス」に関するご意見・ご要望等ございましたら、本支店窓口までお問い合わせください。

発行：日本政策金融公庫 総合研究所 ～ホームページ <http://www.jfc.go.jp/> ～